

株式会社ディー・シーカンパニー様

導入機材：「EinScan-Pro2X Plus」

3D スキャナーを取り入れて、コストカットから事業展開。
時代の最先端をゆく事業へ。

事業・サービスの特徴

株式会社ディー・シーカンパニー様は、車のバンパーのデザインをカスタムしたいという人向けにFRP(繊維強化プラスチック)を使用したカスタムパーツの開発、製造、販売を行われています。今までは補修用のクレイやパテ、発泡ウレタンなどを使用してハンドメイドで作成されていましたが、複雑な形状の要求されてきた為、現在は工業製品に近いワークフローで3D スキャナやCAD の最先端の技術を使用して作成されています。

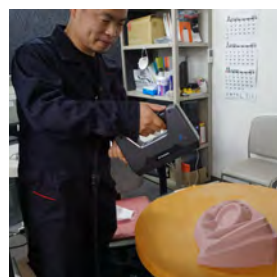
3D テクノロジー技術を取り入れて事業展開へ

元々 FRP の製造をメインに行っていましたが、3D ツールの導入によって様々な素材を扱うことができ、製造できる商品に幅ができました。ABS 樹脂などは熱加工の収縮率が大きく、設計データに収縮率を加味した変形を加える必要があり、ハンドメイドでは工数もかかり簡単にできるようなものではありません。しかし、3D スキャナを導入したことによりスキャンデータの拡大縮小が容易になり、全体の工程・時間が大幅に短縮できるようになりました。3D スキャナが手元にあると、打ち合わせから出てきたその場で思いついたようなアイデアをすぐにデータ化することができ、パーツ開発につながったこともあります。対象物のスキャンデータさえあれば、様々なトラブル回避や活用方法を後で考えることもできます。その結果ハンドメイドではできないような形状が開発できるようになりました。

打ち合わせもリモートへ

スキャン導入前は、お客様に実際に現場に来ていただいて車の前で打ち合わせを行っていました。しかし、3D スキャンすることにより車のデータを送るだけで情報が共有できるので、現場に来ていただくなくともパソコンの前で遠隔で打ち合わせができるようになりました。

同じデータを確認しながら、スムーズにやり取りができるようになったことはテレワーク導入が進められている時代にも合っていて、いいですね。



3Dツール導入の背景

複雑な形状を要求されることが多くなり、また様々な材料を希望されることも増えていきました。それに伴い、ハンドメイドでは手間も増えて精度も限界になり、工業製品に近い形でCADを使用することが求められてきました。まずCADで作ろうとするのにも車のデータがないので、まずはデータ化の為に3Dツールの導入を決定しました。

きっかけは口コミ！？

元々は非常に高価な他社製のハイエンド3Dスキャナを使用していました。実はそのスキャナーが故障してしまい、急速同業者の方から『EinScan Proシリーズ』を借りて使用しました。以前に使用していたスキャナよりも価格が安価なので、本当に計測できるのか疑心暗鬼でしたが実際使用してみたところ、全く遜色のない使用感と取得データに驚き、導入の流れとなりました。現在は『EinScan-Pro2X Plus』を2年程活用されています。



(左) スキャナを使用する起源となったパーツと同型のもの。

データ計測について

「お客様の複雑で難しい要望に答えたいと思い、スキャン導入を進めました。スキャン導入により精度の高い品質で、工程削減もおこなうことができました。またデータ化ができることにより、商談のスタイルも変わったことが意外なメリットでした。遠方のお客様とも簡単にやりとりができます。」

長年この業界にいらっしゃる内田氏。これまでの蓄積した経験を生かしながら、新しい技術を積極的に取り入れてお客様のニーズに果敢に応じていく様子が伺えました。



株式会社ディー・シーカンパニー

工場長 内田 亘 氏

〒566-0063 大阪府摂津市鳥飼銘木町12-18